（別紙）

平成23年度　農林水産省農林認定品種一覧

作物名	認定番号	品種名	申請機関（主となる育成機関）	主要特性
水稲	水稲農林440号	ほっかりん	（地独） 青森県産業技術センター	白米のアミロース含有率が低く、良食味。障害型耐冷性が強く、低温年での不稔発生が少ない。
水稲	水稲農林441号	モミロマン	（独）農研機構　作物研究所	玄米での外観が食用品種と識別性がある。耐倒伏性が高く、粗玄米収量の水準が高いことから、飼料用米はもとより、WCS での活用も可能。
小麦	小麦農林174号	きたさちほ （北見８３号）	（地独） 道総研北見農業試験場	製めん適性に優れ、コムギ縞萎縮病抵抗性を有する。
大豆	だいず農林142号	ゆめのつる （中育６０号）	（地独） 道総研中央農業試験場	裂皮粒の発生が少なく外観品質が優れ、多収。ダイズシストセンチュウの抵抗性が強い。
そば	そば農林7号	レラノカオリ	（独）農研機構 北海道農業研究センター	早熟、大粒、多収であり、味、香り、かたさに優れ、食味が良い。脱皮歩留りが良く製粉時のロスが少ない。
さとうきび	さとうきび農林30号	KN00-114	（独）農研機構 九州沖縄農業研究センター	茎数が多く多収であり、甘蔗糖度が高く品質が良い。早期収穫が可能で、葉焼病葉、さび病類に強い。
茶	茶農林56号	はるのなごり	宮崎県総合農業試験場	晩生系統であり、製茶品質は色沢や香気に優れる。炭疽病及び輪斑病に抵抗性を有する。
茶	茶農林57号	なごみゆたか	宮崎県総合農業試験場	製茶品質は、釜炒り茶、煎茶ともに良好な香りで旨味が強い。中生種で、生葉収量は一･二番茶ともに多収。
とうがらし	とうがらし農林台5号	みやざき台木３号	宮崎県総合農業試験場	青枯病・疫病に対して、強い抵抗性を有しており、PMMoV（P12）に対しても抵抗性（L3）を有する。草勢は強く、節間は長く、主枝は太くて硬い。

作物名	認定番号	品種名	申請機関(主となる育成機関)	主要特性
かんきつ	みかん農林18号	津之望（つのぞみ）	(独)農研機構　果樹研究所	芳香があって食味が良い。隔年結果性が低く、連年安定生産が容易。12月中下旬に成熟する早生品種で、露地栽培が可能。
もも	もも農林26号	つきかがみ	(独)農研機構　果樹研究所	甘味が多く、酸味が少なく、食味が優れる。果皮が滑らかで、裂果の発生がないため無袋栽培が可能。晩生であり、「黄金桃」の約１週間後が収穫期となり、リレー出荷が可能。
ぶとう	ぶどう農林25号	サンヴェルデ	(独)農研機構　果樹研究所	巨峰と同時期に熟する黄緑色ぶとうであり、果粒重もほぼ同程度。はく皮は巨峰並みに容易であり、肉質がよい。２回のジベレリン処理により容易に種なし果を生産できる。
シロクローバ	ｼﾛｸﾛｰﾊﾞ農林合6号	コロボックル（北海１号）	(独)農研機構　北海道農業研究センター	耐寒性に優れ、競合力が緩やかで過繁茂しないため、混播した場合、イネ科牧草の抑圧のリスクが小さい。
とうもろこし	とうもろこし農林交69号	きよら（北交７０号）	(独)農研機構　北海道農業研究センター	初期生育が優れ、すす紋病の抵抗性が極めて強い。
ソルガム	ソルガム農林交17号	涼風（すずかぜ）	長野県畜産試験場	高消化性遺伝子 bmr-18を有する早生のスーダン型ソルガム。茎葉の繊維成分は高消化性繊維 Oa が多く、推定 TDN は高い。乾物率・サイレージの嗜好性は標準品種より高い。

《農林認定》　水稲「ほっかりん」

様式２

１．育成機関

地方独立行政法人青森県産業技術センター
　農林総合研究所藤坂稲作部

２．来歴

育成期間：平成１２年～２２年　（１１年間）
交 配 親：ふ系１８２号＊４×北海２８７号
旧系統名：ふ系２２２号

３．主要特性

・「北海 287 号」由来の低アミロース米遺伝子を持つと推定され、白米のアミロース含有率は「かけはし」に比べ５％程度低く、良食味である。
・障害型耐冷性が「かけはし」より強く低温年での不稔発生が少ない。
・ご飯のつやが良く、もちもちして、食べると顔がほころび、ホカホカした気持ちになるイメージから命名した。

４．特性概要

（１）生育特性

・「かけはし」より出穂期は３日程度遅く、成熟期は並かやや遅く、育成地では「早生」である。
・いもち病抵抗性は、真性抵抗性遺伝子は「*Pia*」「*Pii*」を持つと推定され、葉いもち、穂いもちとも「やや強」である。
・穂発芽性が「やや難」で「かけはし」より優れる。
・収量は「かけはし」並かやや少ない。

（２）品質特性

・白米のアミロース含有率は 14 ％程度で、登熟期間が極端に高温となると玄米が白濁する。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：東北北部地域及び中山間地域
普及見込み：青森県で奨励品種に準ずる認定品種に採用
（普及見込み面積　約 80ha）

６．品種登録出願状況

平成２３年４月２７日　出願
平成２３年７月２６日　出願公表

７．予算区分

指定試験事業「寒冷地北部及び中山間地向け高度耐冷性、良食味及び直播適性の水稲品種の育成」

系譜図

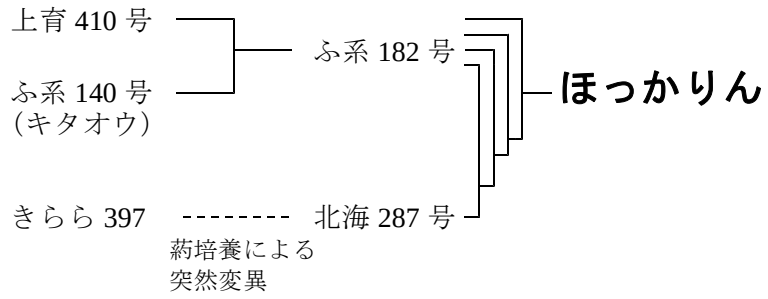


表１　生育特性

（育成地　平成18～22年）

品種名	出穂期（月.日）	成熟期（月.日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	精玄米重（kg/a）	玄米千粒重（g）
ほっかりん	8. 3	9.12	74	17.0	442	57.4	22.7
かけはし	7.31	9.12	71	16.2	452	57.2	23.0

品種名	耐倒伏性	穂発芽性	耐冷性	いもち病抵抗性			白葉枯病抵抗性
				真性	葉いもち	穂いもち	
ほっかりん	やや強	やや難	極強	*Pia, Pii*	やや強	やや強	やや弱
かけはし	強	やや易	強	*Pii*	中	中	やや弱

表２　品質特性

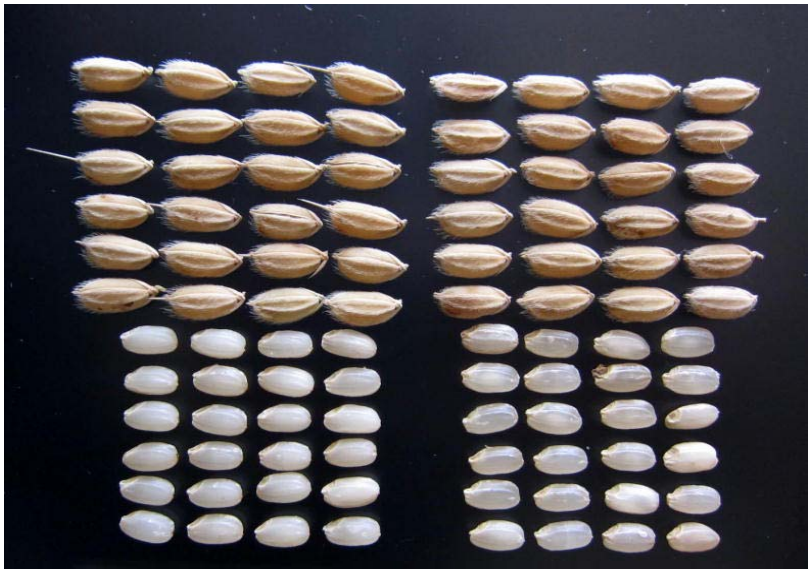
（育成地　平成18～22年）

品種名	玄米品質	食味	白　米	
			ｱﾐﾛｰｽ含有率	ﾀﾝﾊﾟｸ質含有率
ほっかりん	上下	上中	14.0	7.6
かけはし	上下	中上	19.2	7.7

草　　姿

（左：「ほっかりん」、右：「かけはし」）

籾　及　び　玄　米



（左：「ほっかりん」、右：「かけはし」）

草　　姿（立　毛　中）

《農林認定》　　水稲「モミロマン」

様式２

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究所　稲研究領域（稲育種）
九州沖縄農業研究センター　水田作・園芸研究領域（稲育種）

２．来歴

育成期間：平成7年～19年（13年間）
交 配 親：西海203号*3//IR65598-112-2/西海203号
旧系統名：関東飼206号

３．主要特性

・玄米重が高い多収品種
・米粉麺はコシが強く、米粉麺への利用に適する

４．特性概要

（１）生育特性

・精玄米重は、移植栽培・直播栽培とも「タカナリ」より4～9%多収で、屑米を含む粗玄米重は「日本晴」より35～40%高い多収品種
・ＴＤＮ収量は1.10t/10aで「日本晴」より8%、「タカナリ」より10%多収
・出穂期は「日本晴」より２日程度早く、関東平坦部では“中生の晩”
・稈長は「日本晴」並みで、穂数は少なく、草型は“極穂重型”
・耐倒伏性は“極強”で直播栽培にも適
・いもち病真性抵抗性遺伝子型は不明、白葉枯病抵抗性は“弱”、縞葉枯病は“罹病性”、穂発芽性は“やや易”
・水稲用除草剤ベンゾビシクロン他に感受性

（２）品質特性

・玄米の腹白、心白、乳白が著しく多く、玄米品質は著しく劣る
・米飯の粘りは少なく、硬いく、食味の総合評価は“下中”
・「モミロマン」の米粉麺はコシが強く、米粉麺への利用に適する
・著しく不良な玄米品質と米飯食味で一般食用米との識別性を具備

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：関東以西地域
普及見込み：茨城県、岐阜県、大分県、宮崎県を中心に平成22年に推定で2,000ha栽培（日本草地畜産種子協会の販売量の増加から推定）（許諾件数12件）。平成23年度は種子販売量最大の増加から推定してさらに増加

６．品種登録出願状況

平成22年9月22日　　品種登録

７．予算区分

［運営費交付金］直播適性に優れた高生産性飼料用稲品種の育成
［委託費］農林水産省高度化事業「多収飼料米品種を活用した高品質豚肉生産システムの確立」

系譜図

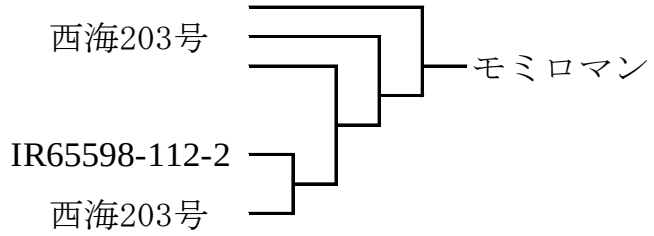


表１　生育特性

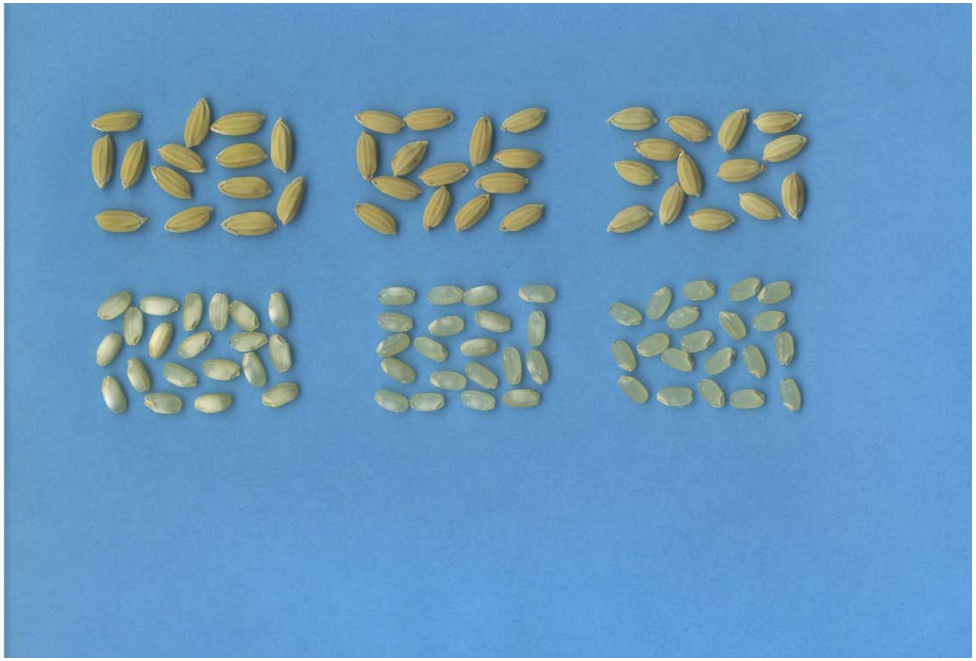
品種名	出穂期（月日）	成熟期（月日）	稈長（cm）	耐倒伏性	精玄米重（kg/a）	比率（%）	粗玄米重（kg/a）	比率（%）	TDN収量（t/10a）	比率（%）
モミロマン	8.15	10.09	89	極強	76.5	132	82.3	140	1.10	108
日本晴	8.17	9.27	90	やや強	58.1	100	59.6	100	1.02	100
タカナリ	8.09	9.28	77	極強	69.9	122	71.8	122	1.00	98

表２　モミロマンの米粉麺の官能評価（湿式気流粉砕）

品種名	官能評価				評価
	麺のコシ	ぬめり感	食味	総合	
モミロマン	4	3	4	11	ぬめりなく、コシが強く、味も良い。
コシヒカリ	2	1	2	5	麺のぬめりが強く、味もあまり良くない。

注）官能評価。コシ（５段階評価、数字が大きいほどコシが強い）、ぬめり感（３段階評価、数字が大きいほどぬめりが少なく、食感が良い）、食味（４段階評価、数値が大きいほど味が良い）、株式会社波里（平成 21 年）

モミロマンの草姿（左：モミロマン、右：タカナリ）



モミロマンの籾及び玄米（左：モミロマン、中：タカナリ、右：日本晴）

《農林認定》　小麦「きたさちほ」

様式２

１．育成機関
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部北見農業試験場研究部麦類グループ

２．来歴
育成期間：平成１１年～２２年　（１２年間）
交 配 親：北系１７３１×北見７２号
旧系統名：北見８３号

３．主要特性
・コムギ縞萎縮病抵抗性が「きたもえ」並に優れる。
・ゆでうどんの粘弾性が優れ、製めん適性に優れる。
・容積重が大きい。
・品種名称の由来：北海道小麦の生産や消費に幸せをもたらす品種

４．特性概要
（１）生育特性
・成熟期は「きたもえ」より３日早い。
・子実重は、育成地（北見農試）ではやや劣るが、その他の試験地では「きたもえ」とほぼ同程度である（表１）。
・コムギ縞萎縮病抵抗性は「きたもえ」並の‘中’で、北海道向けの日本めん用品種では最も優れる。その他の病害・障害抵抗性は「きたもえ」と同程度である（表２）。
・品質取引項目のひとつである容積重が「きたもえ」より大きい（表１）。

（２）品質特性
・灰分および蛋白含量、製粉歩留および粉の色は「きたもえ」と同程度である。アミロース含有率は「きたもえ」よりもやや低い（表３）。
・ゆでうどんのめんの色は「きたもえ」と同程度に良好で、粘弾性は「きたもえ」よりも優れる。総合点は「きたもえ」よりも高く、製めん適性は優れる（表３）。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：北海道の小麦縞萎縮病発生地域
普及見込み：北海道で優良品種に採用
（普及見込み面積　1,000ha）

６．品種登録出願状況
平成２３年７月１日　出願
平成２３年１１月９日　出願公表

７．予算区分
指定試験

系譜図

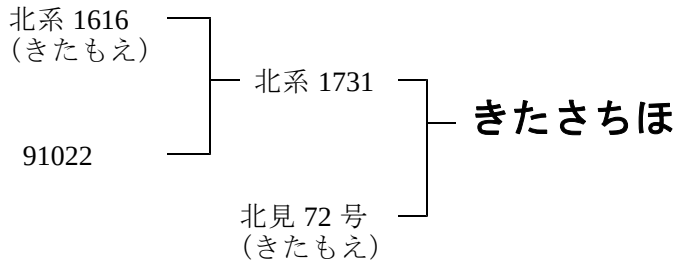


表１　生育特性
（北見農試は平成 18 ～ 21 年播種、A 市は平成 19 ～ 21 年播種の平均）

場所	系統名または品種名	出穂期（月日）	成熟期（月日）	稈長（cm）	穂長（cm）	子実重（kg/a）	同左比（%）	容積重（g/l）	千粒重（g）
北見農試	きたさちほ	6/10	7/25	86	8.4	54.9	96	837	35.8
	きたもえ	6/12	7/28	82	7.3	57.5	100	819	35.3
	ホクシン	6/10	7/25	86	8.5	57.0	99	817	35.7
	きたほなみ	6/11	7/27	84	8.5	65.7	114	830	36.0
A[1)]	きたさちほ	6/5	7/18	90	8.7	50.1	100	847	38.6
市	きたもえ	6/6	7/19	82	7.3	50.2	100	829	37.5

注1)A市はコムギ縞萎縮病多発圃場での成績である。

表２　病害および障害抵抗性

系統名または品種名	病害および障害抵抗性					
	耐雪性	赤さび病	うどんこ病	赤かび病	コムギ縞萎縮病	穂発芽性
きたさちほ	やや強	やや弱	やや強	やや弱	中	やや難
きたもえ	やや強	弱	やや強	やや弱	中	やや難
ホクシン	やや強	弱	やや強	やや弱	弱	中
きたほなみ	やや強	やや強	やや強	中	やや弱	やや難

表３　品質特性（北見農試、平成 19 ～ 22 年産、ビューラーテストミル製粉）

系統名または品種名	原粒灰分（%）	原粒蛋白（%）	製粉歩留（%）	アミロース含有率（%）	粉の色（色彩色差計）			ゆでうどんの官能検査		
					明るさ L*	赤色み a*	黄色み b*	色（20）	粘弾性（25）	総合点（100）
きたさちほ	1.35	10.5	69.0	21.9	89.18	-0.84	19.56	17.3	17.7	73.8
きたもえ	1.40	10.4	68.5	24.3	88.97	-0.52	18.61	16.9	16.0	71.4
ホクシン	1.40	10.3	67.8	22.0	89.05	-0.24	16.25	14.0	17.5	70.0
きたほなみ	1.27	9.4	72.0	22.2	89.40	-0.66	17.36	17.9	17.7	74.5

「きたさちほ」の草姿
左「きたさちほ」　中央「きたもえ」　右「ホクシン」

「きたさちほ」の穂(上)　および粒(下)
左「きたさちほ」　中央「きたもえ」　右「ホクシン」

《農林認定》　大豆「ゆめのつる」

様式２

１．育成機関

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　中央農業試験場
作物開発部　作物グループ

２．来歴

育成期間：平成13～22年　（10年間）
交 配 親：中交0708-2×十系885号
旧系統名：だいず「中育60号」

３．主要特性

・裂皮粒の発生が少なく外観品質が優れる。
・ダイズシストセンチュウ抵抗性が強で、「ユウヅル」より多収である。
・「ユウヅル」と同様に煮豆等の加工に適する。
・「ゆめのつる」の名称は、「ユウヅル」の後継として夢のように素晴らしい大豆ができることを願って付したものである。

４．特性概要

（１）生育特性

・成熟期は“やや極晩”で、「ユウヅル」より1～2日遅い。
・倒伏抵抗性は“強”、わい化病抵抗性は“やや強”、耐湿性（開花期頃）は“中”、茎疫病圃場抵抗性は“強”である。

（２）品質特性

・子実の大きさは「ユウヅル」並の極大の小で、臍の色は“黄”、種皮の地色は“黄白”である。
・粗蛋白、粗脂肪および全糖含有量は「ユウヅル」並である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道（渡島南部、檜山北部、檜山南部とこれに準ずる地帯）
普及見込み：北海道優良品種に採用（普及見込み面積 300ha）

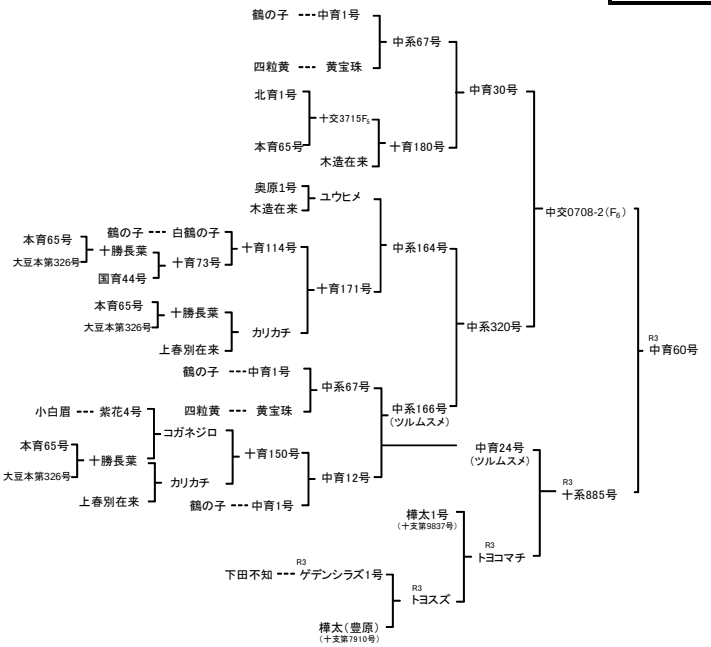
６．品種登録出願状況

平成 23 年 6 月 7 日　出願
平成 23 年 10 月 7 日　出願公表

７．予算区分

・指定試験事業
・新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物提供のための総合研究
（外観品質の高い煮豆用極大粒大豆品種･系統の育成および高品位収穫技術の開発）
・低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発
（北海道らしい良食味で豆腐加工適性の高い大豆系統の選抜）

系譜図



※点線は純系選抜
※ R3 はセンチュウれース 3
抵抗性の系統

表１－１　生育特性（普及見込み地帯のべ7箇所平均、平成20～22年）

品種名	成熟期（月日）	倒伏程度	主茎長（cm）	子実重（kg/a）	標準比（%）	百粒重（g）	裂皮程度	品質（検査等級）
中育60号	10/6	0.5	79	372	109	49.5	0.6	2中
ユウヅル	10/5	1.3	79	344	100	49.2	2.4	3中

表１－２　生育特性（育成地、平成20～22年）

品種名	シストセンチュウ抵抗性			わい化病抵抗性	耐湿性（開花期頃）	茎疫病圃場抵抗性
	レース1	レース3	判定			
中育60号	S	R	強	やや強	中	強
ユウヅル	S	S	弱	弱	中	中

※ R は抵抗性、S は感受性を示す。

表２　品質特性（育成地、平成20～22年）

品種名	子実成分含有率（%）			加工適性		
	粗蛋白	粗脂肪	全糖	煮豆	豆腐	納豆
中育60号	43.3	20.3	23.3	適	可	適
ユウヅル	43.9	20.0	23.4	適	可	適

２枚目：写真

草姿

（左：「ゆめのつる」、右：「ユウヅル」）

子実

（左：「ゆめのつる」、右：「ユウヅル」）

《農林認定》　そば「レラノカオリ」

様式２

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター畑作研究領域

２．来歴
育成期間：平成１３年～２０年　（８年間）
交 配 親：在来種「端野・緋牛内」からの選抜
旧系統名：北海１１号

３．主要特性
・早熟、大粒、多収である。
・脱皮歩留りが良く製粉時のロスが少ない。
・味、香り、かたさに優れ、食味が良い。
・レラはアイヌ語で風を意味する。風味があって美味しいソバという意味である。

４．特性概要
（１）生育特性
・成熟期は「キタワセソバ」よりも２～３日早く、早熟である。
・「キタワセソバ」よりも大粒で多収である。
・容積重は「キタワセソバ」より劣る。

（２）品質特性
・「キタワセソバ」よりも脱皮歩留りが良く、製粉時のロスが少ない。
・味、香り、かたさ等が「キタワセソバ」より優れ、食味がよい
・色が「キタワセソバ」よりやや劣る。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：北海道
普及見込み：北海道で優良品種に採用予定
（普及見込み面積　1,500ha）

６．品種登録出願状況
平成２２年５月１０日　品種登録

７．予算区分
［運営費交付金］311-f　寒地における地域特産作物の優良品種の育成及び利用技術の開発
［委託費］新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物提供のための総合研究、実施課題名：高品質・機能性向上のための育種技術及び高品質そば品種の開発

系譜図

端野・緋牛内 ―――――― レラノカオリ

（遺伝資源「端野・緋牛内」から個体選抜と系統選抜を経て育成した）

表１　生育特性

（育成地　平成18～22年度）

品種名又は系統名	生育日数 日	草丈 cm	分枝数 本/株	子実重 kg/a	千粒重 g	容積重 g/L
レラノカオリ	72	107	2.3	16.0	29.0	556
キタワセソバ	75	111	2.1	15.5	28.2	591

表２　品質特性

（育成地　平成18～22年度）

品種名又は系統名	蛋白含量 %/DW	灰分 %/DW	ルチン含量 mg/100gDW	色	香り	味	かたさ	そばらしさ
レラノカオリ	8.6	1.28	15.8	14.3	14.1	14.2	14.5	14.4
キタワセソバ	8.2	1.25	15.5	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0

食品官能検査は日本蕎麦協会(1989)による

表３　製品・加工特性

（実需者A　平成19～20年度）

品種名又は系統名	脱皮歩留り (a) %	丸抜き製粉歩留 (b) %	製粉歩留り (a×b) %
レラノカオリ	70.1	91.3	64.0
キタワセソバ	65.3	90.0	58.7

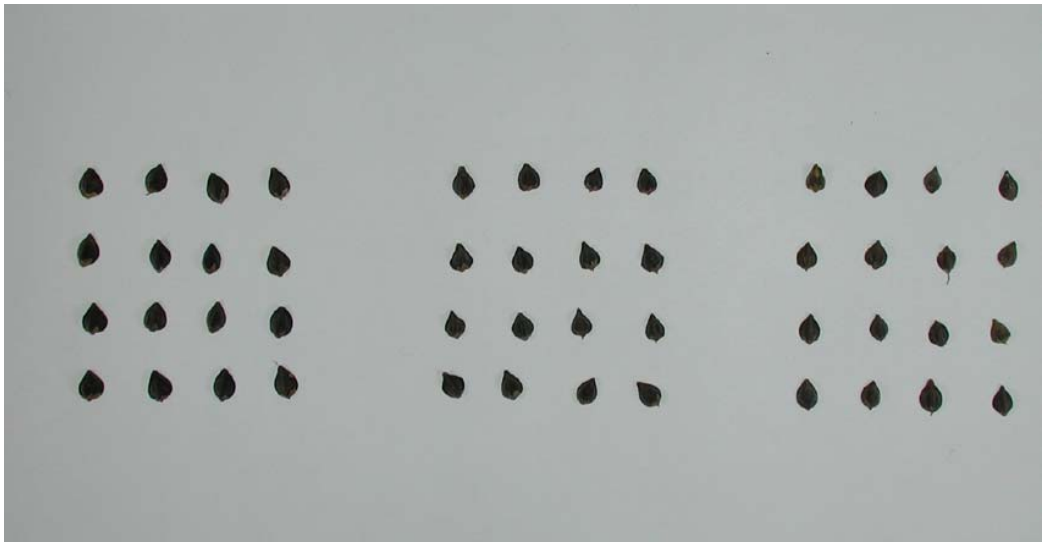
脱皮歩留＝丸抜重÷玄ソバ重×100
丸抜製粉歩留＝粉重÷丸抜重×100
製粉歩留＝脱皮歩留×丸抜製粉歩留÷100

２枚目：写真

草　　姿

（左：レラノカオリ，中央：キタワセソバ，右：キタユキ）

種　子



（左：レラノカオリ，中央：キタワセソバ，右：キタユキ）

《農林認定》　　さとうきび「ＫＮ００－１１４」

様式２

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター
　作物開発・利用研究領域さとうきび育種グループ

２．来歴

育成期間：平成１２年～２２年　（１１年間）
交 配 親：88F1903×MO-F
旧系統名：ＫＮ００－１１４

３．主要特性

・茎数が多く多収
・甘蔗糖度高く品質が良い
・早期収穫できる
・葉焼病葉、さび病類に強い

４．特性概要

（１）生育特性

・株出し多収
・茎径は「NiF8」に比べてやや細い「やや細」
・脱葉性は「やや易」で、耐倒伏性が高い

（２）品質特性

・「NiF8」よりも高糖で早期の収穫への対応が可能

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：鹿児島県大島地域
普及見込み：鹿児島県で奨励品種に採用見込み
　　（普及見込み面積１，０００ha）

６．品種登録出願状況

平成２３年　９月２１日　出願

７．予算区分

［委託費］低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の研究、実施課題：不良気象条件下においても安定して極早期高糖・株出し多収の秋収穫向けサトウキビ品種の育成

系譜図

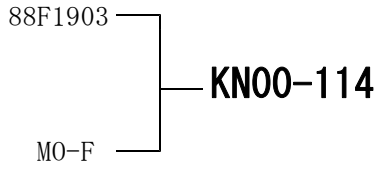


表１　生育特性

（育成地　春植え：H16～21年度、株出し：H17～21年度）

品種名又は系統名	葉焼け病抵抗性	さび病類抵抗性	茎数(本/a)	茎長(cm)	茎径(mm)	一茎重(g)	原料茎重(kg/a)
春植え							
KN00-114	強	強	955	258	22.9	932	857
NiF8	強	強	839	251	24.1	976	812
株出し							
KN00-114	－	－	993	271	22.9	986	959
NiF8	－	－	987	246	23.2	913	882

表２　品質特性

（育成地　春植え：H16～21年度、株出し：H17～21年度）

品種名又は系統名	ﾌﾞﾘｯｸｽ(%)	蔗汁糖度(%)	甘蔗糖度(%)	純糖率(%)	繊維分(%)	可製糖率(%)
春植え						
KN00-114	18.2	16.1	13.0	88.5	12.5	12.2
NiF8	17.7	15.5	12.7	87.2	11.5	11.8
株出し						
KN00-114	18.1	15.8	12.8	87.4	12.3	11.9
NiF8	17.8	15.4	12.6	86.4	11.4	11.7

草　　姿

（左：「KN00-114」、右：「NiF8」）

原　料　茎

（左：「NiF8」、右：「KN00-114」）

《農林認定》　茶「はるのなごり」

様式２

１．育成機関
宮崎県総合農業試験場
　茶業支場　育種科（茶育種指定試験地）

２．来歴
育成期間：昭和６１年～平成２０年　（２２年間）
交 配 親：埼玉１号×宮崎８号
旧系統名：宮崎２５号

３．主要特性
・炭疽病及び輪斑病に抵抗性を有する。
・摘採期が「やぶきた」より４日程度、「かなやみどり」より１日遅い晩生系統
・製茶品質は「やぶきた」と同程度で、色沢や香気は「かなやみどり」より優れる。
・名称の由来は、本品種が良質の晩生品種であることから、中生の「やぶきた」の茶摘みが終わる春を名残惜しむような時期に、良質の茶が生産されることをイメージして命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・一番茶の萌芽期及び摘採期は、「やぶきた」より４日程度、「かなやみどり」より１日遅い晩生系統である。
・耐病性については、炭疽病には強、輪斑病にはやや強で、これらの病害に対しては抵抗性を有する。もち病抵抗性は中である。
・クワシロカイガラムシ抵抗性は中である。
・耐寒性は、赤枯れにはやや強、裂傷型凍害にはやや弱～中である。
・生葉収量は、「やぶきた」より多い。

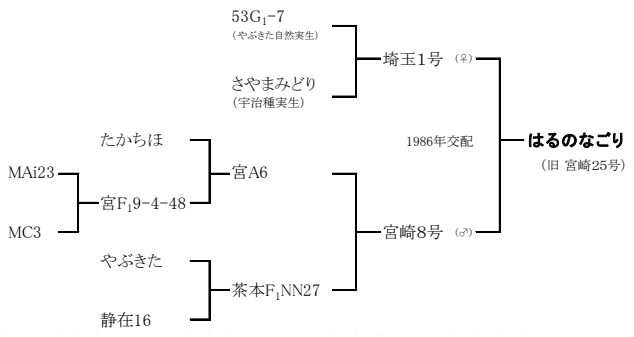
（２）品質特性
・製茶品質は、「やぶきた」程度であり、「かなやみどり」より優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：全国の茶産地
普及見込み：600ha 程度の普及が見込まれ、宮崎県茶業協会と平成 21 年 3 月 1 日に許諾契約を締結し、平成 23 年 3 月までに 8,140 本（0.4ha）を販売した。平成 23 年 6 月に宮崎県の推奨品種に登録され、普及拡大が期待される。平成 24 年春苗として 13,000 本の出荷を予定している。

６．品種登録出願状況
平成２０年１０月２０日　出願
平成２０年１２月１９日　出願公表

７．予算区分
指定試験事業

系譜図



１　生育特性

品種名	早晩性	樹姿	萌芽期[a)] (月日)	摘採期[a)] (月日)	生葉収量(kg/10a)[b)] 一番茶	二番茶	耐寒性 赤枯れ	裂傷型凍害
はるのなごり	**晩生**	**やや開張**	**4/ 5**	**5/ 1**	**314**	**366**	**やや強**	**やや弱～中**
やぶきた	中生	やや直立	4/ 1	4/27	189	283	やや強	中
かなやみどり	晩生	開張	4/ 4	4/30	349	448	やや強	強

注 a)萌芽期、摘採期は2002～2006年の平均値
　b)2003～2006年(4～7年生)における10a当たりの生葉収量。2004年の二番茶後に深刈り実施

２　病害虫抵抗性

品種名	炭疽病 自然発生程度[a)]	評価	輪斑病検定[b)] 発病率(%)	病斑径(mm)	評価	もち病[c)] 発病芽率(%)	評価	クワシロカイガラムシ[d)] 卵数/雌	評価
はるのなごり	**1.1**	**強**	**75**	**4.0**	**やや強**	**28**	**中**	**38.9**	**中**
やぶきた	3.2	弱	100	15.8	弱	51	やや弱	－	弱～やや弱
かなやみどり	1.8	中～やや強	91	3.9	やや強	17	やや強	－	弱

注 a)炭疽病の自然発生程度は1992～1995年、2001～2006年の10年の平均値。発生程度:1(無)～5(多)
　b)1993、2001、2002年の平均値
　c)秋整枝した3年生苗に2002年10月30日にもち病胞子を噴霧接種し、二重被覆して管理し、5月に調査した。
　d)卵数を指標とした抵抗性検定結果。2006年検定。「やぶきた、かなやみどり」は既存の評価

３　品質特性

品種 系統名	一番茶 形状	色沢	香気	水色	滋味	合計	指数	二番茶 形状	色沢	香気	水色	滋味	合計	指数
はるのなごり	**7.6**	**7.3**	**7.9**	**7.8**	**7.9**	**38.5**	**102%**	**5.4**	**6.0**	**5.5**	**7.2**	**5.9**	**29.9**	**99%**
やぶきた	7.5	7.7	7.5	7.4	7.7	37.8	100%	6.0	6.1	5.7	6.4	5.8	30.1	100%
かなやみどり	7.0	6.3	6.8	7.8	6.7	34.6	92%	5.4	5.7	5.3	6.6	5.4	28.4	94%

注 (1) 製茶品質は50g機製茶サンプルの官能審査結果(各項目10点満点)、指数は‘やぶきた’を100としたときの値
　(2) 一番茶は2002～2006年、二番茶は2003～2005年の平均

写真１　はるのなごりの一番茶摘採期の新芽

写真２　はるのなごりの一番茶期の園相

《農林認定》　茶「なごみゆたか」

様式２

１．育成機関
宮崎県総合農業試験場
　茶業支場　育種科（茶育種指定試験地）

２．来歴
育成期間：昭和６３年～平成２２年　（２２年間）
交 配 親：埼玉１６号×福８
旧系統名：宮崎２７号

３．主要特性
・製茶品質は、釜炒り茶、煎茶ともに良好な香りで旨味が強く、「やぶきた」より優れている。
・「やぶきた」より２日程度遅い中生種で、生葉収量は一･二番茶ともに「やぶきた」より多収
・「なごみゆたか」にはﾘﾗｯｸｽ効果をもたらすﾃｱﾆﾝ(ｱﾐﾉ酸)が豊富であり、甘い香りとともに多くの消費者の心がなごむような品種になることを願って命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・一番茶の萌芽期は「やぶきた」より３日、摘採期は１日遅い、生葉収量は一・二番茶ともに「やぶきた」より多い。
・耐寒性は赤枯には「やぶきた」並だが、裂傷型凍害は中～やや強である。
・耐病性は炭疽病、もち病はやや弱、輪斑病はやや強である。
・樹姿はやや直立型、樹勢はやや強、挿し木発根性は良好で、株張りは「やぶきた」より大きく、やや芽重型である。

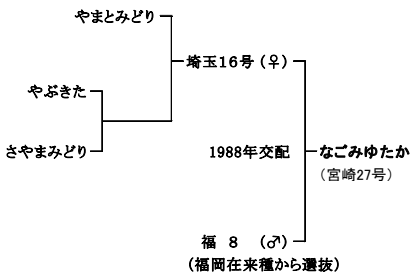
（２）品質特性
・製茶品質は「やぶきた」より優れ、釜炒り茶にすると甘い香りとすっきりとした喉ごしが感じられる。煎茶としても色沢が良く、香気、滋味ともに優れている。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：全国の茶産地
普及見込み：250ha 以上の普及が見込まれ、宮崎県茶業協会と平成 23 年 3 月 1 日に許諾契約を締結し、平成 23 年 3 月までに 900 本を（0.05ha）を販売した。平成 23 年 6 月に宮崎県の推奨品種に登録され、普及拡大が期待される。平成 24 年春苗として 12,400 本の出荷を予定している。

６．品種登録出願状況
平成２２年８月６日　出願
平成２３年１月５日　出願公表

７．予算区分
指定試験事業

系譜図



１　生育特性

品種 系統名	早晩性	樹姿	樹勢	株張	萌芽期[a]（月日）	摘採期[a]（月日）	生葉収量(kg/10a)[b] 一番茶	生葉収量(kg/10a)[b] 二番茶
なごみゆたか	中生	やや直立	やや強	大	4/2	4/28	392	535
やぶきた	中生	やや直立	やや強	中	3/30	4/27	308	346

注　a　萌芽期および摘採期は1996～2000，2005～2009年の平均
　　b　生葉収量は一番茶2007～2009年の平均，二番茶2007，2008年の平均

２　病害虫抵抗性

品種 系統名	耐寒性[a] 赤枯	耐寒性[a] 裂傷型凍害	耐病性[b] 炭疽病	耐病性[b] 輪斑病	耐病性[b] もち病
なごみゆたか	中	中～やや強	やや弱	やや強	やや弱
やぶきた	中	中	弱	弱	やや弱

a　耐寒性：赤枯は1995～1998及び2004～2009年の自然発生程度，裂傷型凍害は1994，2004年の検定結果
b　耐病性：炭疽病は1995～1998、2005～2009年の自然発生程度，輪斑病は1995，2004，2009年の検定結果，もち病は静岡県農林技術研究所茶業研究ｾﾝﾀｰが2002～2007年に調査した自然発生程度

３　品質特性

茶種（茶期）	品種 系統名	外観[a] 形状	外観[a] 色沢	内質[a] 香気	内質[a] 水色	内質[a] 滋味	合計	指数	備考	成分分析結果(%、乾物重)[d] 全窒素	アミノ酸	テアニン	NDF	カフェイン	タンニン
釜炒り茶（一番茶）[b]	なごみゆたか	―	7.7	8.2	8.4	8.3	32.5	109	甘い香り,すっきりした喉ごし,旨味	6.0	4.1	2.4	17.0	3.3	12.7
	やぶきた	―	7.1	7.7	7.1	8.0	29.9	100		5.9	3.7	2.1	17.4	3.1	13.5
煎茶（一番茶）[c]	なごみゆたか	7.3	8.2	8.2	7.1	8.1	38.8	106	花香、旨味	6.0	3.9	2.2	17.0	3.1	13.4
	やぶきた	7.4	7.6	7.5	6.7	7.4	36.6	100		5.9	3.8	2.1	17.0	3.1	13.8
煎茶（二番茶）[c]	なごみゆたか	5.9	6.9	6.9	6.3	7.0	33.0	116	旨味	4.9	2.0	0.9	19.8	3.2	17.0
	やぶきた	6.4	6.2	5.4	5.2	5.3	28.5	100		4.7	1.4	0.6	19.5	3.5	19.3

注　a　各項目10点満点の官能審査，指数は「やぶきた」の合計を100としたときの数値
　　b　釜炒り茶は1kg型釜炒り茶製茶機または100g型微量炒り葉機により製茶，2005，2007～2009年の平均
　　c　煎茶は50g製茶機により製茶，一番茶2005～2009年，二番茶2006～2009年の平均
　　d　成分分析は近赤外分析計(静岡製機　GT-8S)により実施，分析年はb，cと同様

写真１　「なごみゆたか」の一番茶摘採期の新芽

写真２　「なごみゆたか」の一番茶期の園相

《農林認定》　とうがらし台木品種「みやざき台木３号」

１．育成機関
宮崎県総合農業試験場　生物工学部、野菜部

２．来歴
育成期間：平成 18 年～平成 20 年
交 配 親：MZC-391 × KLDH152
旧系統名：試交４号

３．主要特性
・青枯病に対して、「みやざき台木２号」と同程度で「台助」より強い抵抗性を有する。
・疫病に対しては「みやざき台木２号」よりも強い抵抗性を有する。
・PMMoV（P12）に対しても抵抗性（L^3）を有する。
・草勢は強く、節間は長く、主枝は太くて硬い。

４．特性概要
（１）生育特性
・草勢は強く、節間が長く、主枝は太くて硬い。
・葉は緑色で大きく、花は白色で大きい。
・茎にアントシアニンがやや発生しやすい。
・果実は長円錐形、果実の先端が尖り、大きさはやや小さめである。
・未熟果は緑色で、完熟になると赤色で辛みがあり蔕離れしやすい。
（２）品質特性
・青枯病抵抗性は「みやざき台木２号」と同程度で「台助」より強い。
・疫病抵抗性は「みやざき台木２号」より強い。
・トバモウイルス抵抗性 L^3 を保有する

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：全国の青枯病、疫病発生ほ場
普及面積：平成 21 年度から社団法人　宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センターと許諾契約を締結し、平成 22 年度 16ha に普及している。

６．品種登録出願状況
平成 21 年 7 月 3 日出願
平成 21 年 9 月 24 日出願公表
平成 23 年 12 月 6 日品種登録（第 21221 号）

７．予算区分
先端技術を活用した農林水産研究高度化事業

系譜図

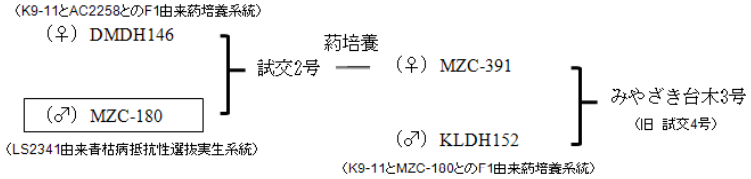


表１　各品種・系統の接ぎ木栽培試験における収量特性の比較

区	A品			可販果			総収量		
	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	率 (重量%)	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	率 (重量%)	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	収量比 (重量%)
自根区	14,150	444	77	16,790	522	91	18,610	572	100
‘みやざき台木1号’	16,080	517	78	18,870	600	91	20,850	660	115
‘みやざき台木2号’	15,390	486	81	17,970	561	93	19,450	602	105
‘みやざき台木3号’	15,370	482	81	17,760	550	92	19,440	597	104
‘台助’	15,400	485	81	18,040	561	94	19,330	596	104

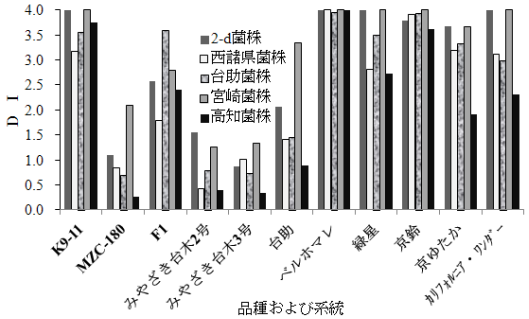


図１　異なる地域で採取した５種類の青枯病菌株を用いた各品種・系統における青枯病抵抗性の評価.
「2-d」菌株は国富町,「西諸」菌株はえびの市でそれぞれ単離した.「高知」菌株は，高知県農業技術センターより分譲された.「台助」菌株は，国富町において青枯病に感染した青枯病抵抗性市販台木品種「台助」より単離した.「宮崎」菌株は，宮崎市において青枯病に感染したトマトより単離

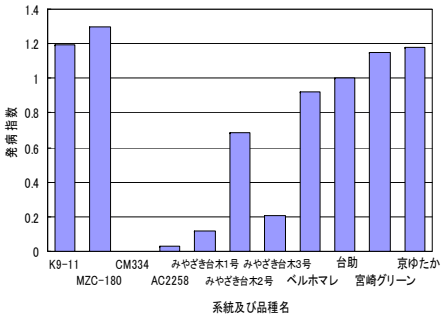


図２　各品種・系統における疫病抵抗性の評価.
接種検定には，日本植物防疫協会より分譲された本県で採取した疫病菌「宮崎」菌株を用いた.

写真１　「みやざき台木３号」

写真２　接ぎ木状況
台木「みやざき台木３号」
穂木「京鈴」

《農林認定》　　かんきつ「津之望（つのぞみ）」　　**様式２**

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所　カンキツ研究領域

２．来歴
育成期間：昭和４９年～平成２１年　（３６年間）
交 配 親：清見×アンコール
旧系統名：カンキツロ之津３７号

３．主要特性
・芳香があって食味が良い。
・隔年結果性が低く、連年安定生産が容易である。
・12 月中下旬に成熟する早生品種で、露地栽培が可能である。
・品種名は、育成地の様子を表す「津」にちなむとともに、かんきつ類産業に希望をもたらす品種になるようにと期待して命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・樹勢は中程度、樹姿は直立性と開張性の中間である。
・そうか病には強く、かいよう病に対しては中程度の抵抗性がある。
・収量の年次変動が少なく隔年結果性は低い。

（２）品質特性
・果実は扁球形で、170 g 程度であり、青島温州よりやや大果である。
・果皮は濃橙色で、「青島温州」よりやや剥皮しにくいが、浮き皮が発生しない。
・果肉は濃橙色で、じょうのう膜はやや軟らかく、肉質も軟らかいので食べやすい。
・12 月中下旬に成熟し、果汁の酸含量は「青島温州」と同程度で、糖度は「青島温州」並あるいはやや高く、アンコール様の芳香があり、食味がよい。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：わが国のほとんどのかんきつ類栽培地帯で栽培可能である。

普及見込み：宮崎県を始めとし、九州を中心として普及が見込まれる。
（許諾苗木生産業者数：5 県、25 業者）

６．品種登録出願状況
平成２３年５月２４日　品種登録

７．予算区分
［運営費交付金］213-e　高収益な果実生産を可能とする高品質品種の育成と省力・安定生産技術の開発

系譜図

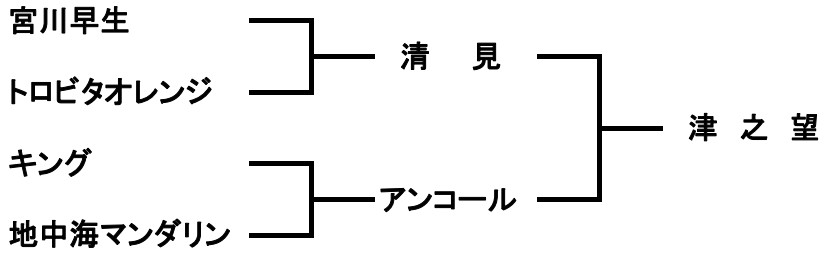


表1 「津之望」の生育特性および品質特性　（果樹研究所カンキツ研究口之津拠点・興津拠点 2009～2010年）

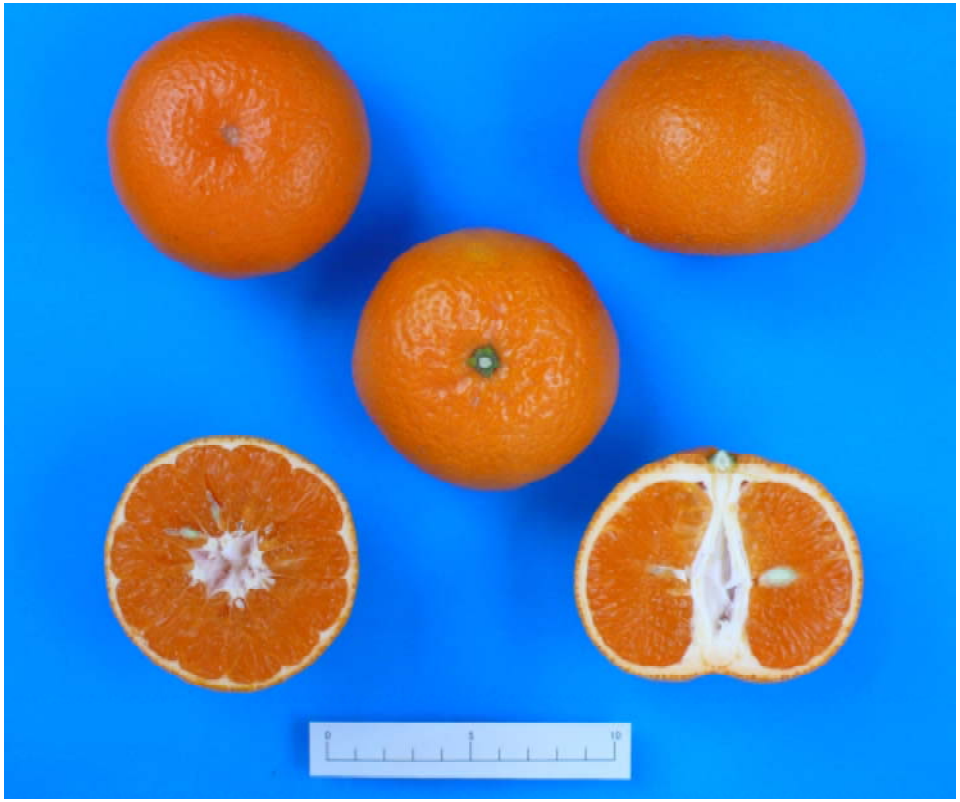
品　種	生育特性							品質特性		
	樹勢	樹姿	そうか病抵抗性	かいよう病抵抗性	収量(kg／樹)			果形	果　皮	
					2009年	2010年	変動係数		果皮色	剥皮性
津之望	中	中間	強	中	41.1	39.1	0.04	扁球	濃橙	中
青島温州	やや強	中間	やや弱	やや強	85.2	11.1	1.09	扁平	橙	易

生育特性については口之津拠点で調査結果、品質特性については興津拠点での調査結果を示す

表2 「津之望」の果実特性　（果樹研究所カンキツ研究興津拠点 2010年）

品　種	果　皮		果実重（g）	果　肉・果　汁					成熟期
	香りの種類／量	浮き皮		果肉色	じょうのう膜の厚さ/硬さ	肉質	糖度（%）	酸含量（g/100ml）	
津之望	アンコール／中	無	173	濃橙	中/やや軟	やや軟	12.1	0.85	12月中下旬
青島温州	温州／少	中	151	橙	中/中	やや軟	10.4	0.78	12月上旬

糖度、酸含量は両品種とも12月20日の分析値



「津之望（つのぞみ）」の果実

「津之望（つのぞみ）」の結実状態

《農林認定》　もも「つきかがみ」

様式２

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所品種育成･病害虫研究領域

２．来歴
育成期間：平成３年～ 22 年（19 年間）
交 配 親：モモ筑波 115 号×モモ筑波 105 号
旧系統名：モモ筑波 123 号

３．主要特性
・生食用の晩生の黄肉品種であり、生食用主要黄肉品種「黄金桃」の約１週間後が収穫期となり、リレー出荷できる。
・果皮が滑らかで、裂果の発生がないため無袋栽培が可能であり、省力的に栽培できる
・甘味が多く、酸味が「黄金桃」より少なく、食味が優れる。
・鏡に映った月のように綺麗な黄色で、果実の表面が滑らかなことから「つきかがみ」と命名された。

４．特性概要
（１）生育特性
・開花期は育成地で４月上旬であり、「あかつき」とほぼ同時期である。
・花芽が多く、花粉を有し、自家結実性で果実の結実は良好である。収量は「あかつき」、「黄金桃」と同程度である。
・果実の収穫期は育成地で８月中下旬となり、「黄金桃」より約１週間遅い。

（２）品質特性
・果実重は 300 ～ 350 ｇ程度である。
・果皮の赤みの着色の多少は中程度である。果皮は滑らかで裂果がなく、無袋栽培が可能である。
・果肉色は黄色で、果肉は緻密である。核と果肉が離れやすい。
・糖度は 13 ～ 14 ％で、酸はpHで4.3程度で、「黄金桃」より酸味が少なく、食味が良い。。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：既存のもも栽培地域
普及見込み：長野県、群馬県
（普及見込み面積　50ha）

６．品種登録出願状況
平成 23 年 5 月 24 日　品種登録

７．予算区分
［運営費交付金］

系譜図

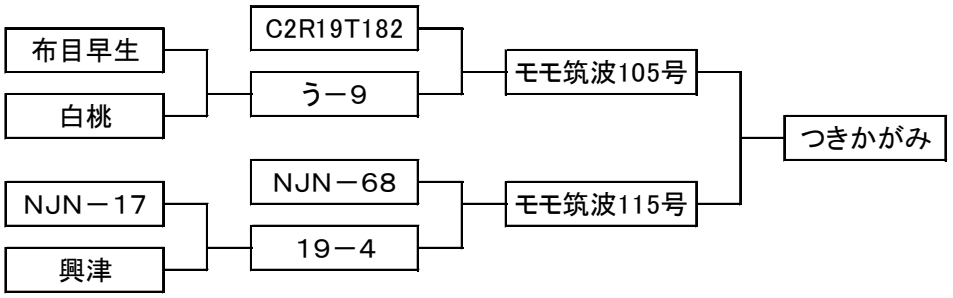


表1 「つきかがみ」の樹性および果実特性　（2005～2009年、無袋栽培、果樹研究所）

品種	開花盛期	花芽の着生	花粉の有無	収量[z] (kg/樹)	収穫盛期	果実重 (g)	果皮着色の多少
つきかがみ	4/6a[y]	多	有	32.7a	8/20c	313ab	中
あかつき	4/7ab	多	有	26.2a	7/25a	283a	多
黄金桃	4/8b	多	有	37.3a	8/13b	346b	やや多

表1　続き

品種	果皮の粗滑	裂果の発生	果肉色	果肉の緻密さ	糖度 (Brix%)	酸度 (pH)	核の粘離
つきかがみ	滑らか	無	黄	密	13.7a	4.37b	離核
あかつき	滑らか	無	乳白	密	12.2a	4.46b	粘核
黄金桃	やや粗い	中	黄	中	14.2a	4.05a	離核

[z] 2008及び2009年（9年生樹）の平均収量
[y] 異なる符号間でLSD 5%水準の有意差あり

図１　「つきかがみ」の結実状況

図２　「つきかがみ」の果実

《農林認定》　ぶどう「サンヴェルデ」

様式２

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所ブドウ・カキ研究領域

２．来歴

育成期間：平成５年～ 21 年　（17 年間）
交 配 親：ダークリッジ×センテニアル
旧系統名：ブドウ安芸津 25 号

３．主要特性

・巨峰と同時期に熟する黄緑色ブドウである。
・果粒重は 14g 程度でほぼ巨峰と同程度である。
・はく皮は巨峰並みに容易であり、肉質は崩壊性で硬い。
・２回のジベレリン処理により容易に種なし果を生産できる。
・品種名は、太陽のもとではぐくまれた緑色（イタリア語で verde）ブドウという意味で命名した。

４．特性概要

（１）生育特性

・樹勢は強く、「巨峰」、「ピオーネ」並みである。
・発芽期、開花期、収穫盛期は「巨峰」とほぼ同時期である。
・収量性は「巨峰」、「ピオーネ」並みで、1.4t/10a 程度と見込まれる。

（２）品質特性

・２回のジベレリン処理で容易に大粒・無核果が生産できる。
・果粒重は 14g 程度で、ほぼ「巨峰」と同程度である。
・はく皮は「巨峰」並みに容易であり、裂果性はない。
・「巨峰」、「ピオーネ」より高糖度、低酸含量である。
・肉質は崩壊性で硬く、「巨峰」、「ピオーネ」より優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：東北以南の巨峰栽培地域
普及見込み：茨城県、栃木県、埼玉県、東京都、大阪府、宮崎県、鹿児島県等
（許諾苗木生産業者数：10 県、28 業者）

６．品種登録出願状況

平成 23 年５月 24 日　品種登録

７．予算区分

［運営費交付金］213-e　高収益な果実生産を可能とする高品質品種の育成と省力・安定生産技術の開発

系譜図

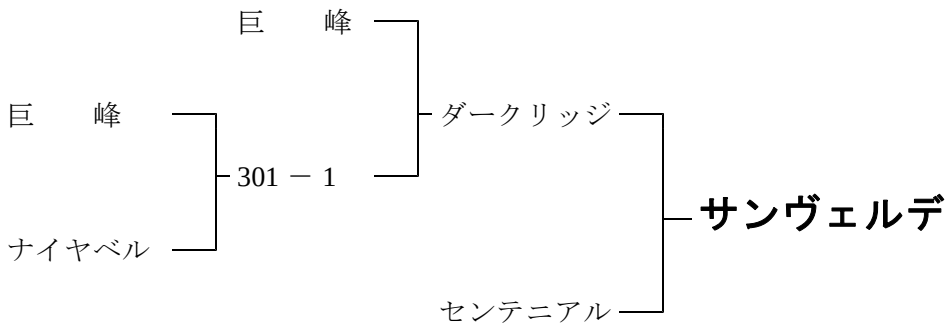


表１「サンヴェルデ」の生育特性および品質特性
（果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点、広島県東広島市、2004 ～ 2009 年）

品　種	樹勢	発芽期	開花期	収穫盛期	果房重 (g)	果粒重 (g)	果皮色
サンヴェルデ	強	4 月 12 日	6 月 3 日	8 月 28 日	524	13.9	黄緑
巨　峰	強	4 月 10 日	6 月 2 日	8 月 28 日	429	12.6	紫黒
ピオーネ	強	4 月 12 日	6 月 2 日	8 月 29 日	529	16.6	紫黒

いずれの品種も満開期および満開 10 ～ 15 日後にジベレリン 25ppm を処理

表２「サンヴェルデ」の品質特性
（果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点、広島県東広島市、2004 ～ 2009 年）

品　種	はく皮の難易	裂果性	糖度 (%)	酸含量 (g/100ml)	果肉特性	果肉硬度	収量
サンヴェルデ	易～中	なし	20.8	0.40	崩壊性	硬	中
巨　峰	易～中	なし～極少	19.2	0.49	中　間	中	中
ピオーネ	中～やや難	なし	19.5	0.44	中　間	中	中

いずれの品種も満開期および満開 10 ～ 15 日後にジベレリン 25ppm を処理

サンヴェルデの結実状況

サンヴェルデの果実

《農林認定》　シロクローバ「コロボックル」

様式２

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
　北海道農業研究センター寒地飼料作物育種研究チーム
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
　根釧農業試験場研究部
ホクレン農業協同組合連合会

２．来歴

育成期間：平成１３年～２２年　（１０年間）
交 配 親：東北１７号から北農研と根釧農試で選抜した９個体
旧系統名：北海１号

３．主要特性

・耐寒性に優れ、植物が小さいため競合力が穏やかで過繁茂しないため鼓脹症やイネ科牧草の抑圧のリスクが小さい。
・チモシー、メドウフェスクとの混播で長期の放牧での利用が可能。
・葉の下に住んでいるアイヌの伝説の小人「コロボックル」から，イネ科牧草の葉の下で共存して生育できることを意味する。

４．特性概要

（１）生育特性

・草丈、小葉長、小葉幅および個体の拡がりが小葉型標準品種「タホラ」より小さい極小葉型品種である。
・耐寒性は強で「タホラ」より優れ、菌核病罹病程度は同程度である。
・放牧適性はほぼ同等で、チモシー茎密度は高く維持できる。
・混播時のイネ科牧草収量はチモシーで 10 ％高く、メドウフェスクで同等、合計収量はやや少なく、マメ科牧草収量は少ない。
・シロクローバの被度が「タホラ」より小さく、特に被度の最大値が低く抑えられ、マメ科牧草優占のリスクが低い。

（２）品質特性

・主要成分である粗蛋白質は「タホラ」と同程度である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：チモシーおよびメドウフェスクが放牧利用される北海道東部
普及見込み：北海道で奨励品種に採用（普及見込み面積　4,000ha）

６．品種登録出願状況

平成２３年９月２１日　出願

７．予算区分

［運営費交付金］212-c　粗飼料自給率向上のための高 TDN 収量のとうもろこし、牧草等の品種育成

系譜図

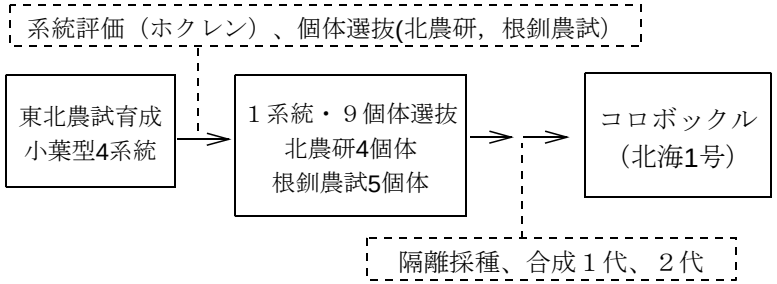


表１「コロボックル」の生育特性と品質特性　（平成18年～22年度）

	コロボックル	タホラ	評価基準	備考
草丈	15	22	cm	北農研単播
小葉長	14	20	mm	北農研個体植
小葉幅	11	16	mm	北農研個体植
個体の拡がり	60	68	mm	北農研個体植
耐寒性	強	中	総合判定	根釧農試耐寒性検定試験
菌核病罹病程度	中	中	総合判定	根釧農試耐寒性検定試験
放牧適性	46	51	乾物利用率%	道総研畜試放牧検定試験
粗蛋白質	27	27	乾物中%	北農研試料、依頼分析
チモシー茎密度	2039	1623	本/㎡	３年目、道内７試験地平均

表２　道東地域のおける混播時の収量特性（平成18年～22年度、道東平均は4試験地の平均

品種	チモシーとの混播（道東平均）				メドウフェスクとの混播（根釧農試）			
	乾物収量kg/a			乾物%	乾物収量kg/a			乾物%
	イネ科草	マメ科	合計	マメ科率	イネ科	マメ科	合計	マメ科率
コロボックル	106	15	120	13	112	20	132	15
（タホラ比）	110	39	90	30	100	53	88	26

タホラ比は「タホラ」区の値を100としたときのコロボックルの値を100分率で示した

表３　「コロボックル」の道東地域における混播時の冠部被度
（%、平成18年～22年度、道東平均は3試験地の平均値）

品種	チモシーとの混播（道東平均）		メドウフェスクとの混播（根釧農試）	
	平均被度	最大値	平均被度	最大値
コロボックル	26	69	37	62
タホラ	46	88	62	93

平均被度は全調査・試験地の平均値、最大値は全調査の最大値

２枚目：写真

草　　姿　（2009 年 7 月撮影）

（左：「コロボックル（北海 1 号）」、右：「タホラ」）

チモシーとの混播（2010 年 8 月撮影））

（左：「コロボックル（北海 1 号）」、右：「タホラ」）

《農林認定》　　とうもろこし「きよら」

様式２

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター　酪農研究領域

２．来歴

育成期間：平成１６年～２２年　（７年間）
交 配 親：Ｈｏ１１２ × Ｈｏ１００
旧系統名：北交７０号

３．主要特性

・すす紋病抵抗性が極強である。
・初期生育が優れる。
・「きよら」の名称の由来は、極強のすす紋病抵抗性で美しい葉を維持し（「清」）、低温でも初期生育が良い（「良」）本品種の特性を表す。

４．特性概要

（１）生育特性

・熟期は「ブリザック」並で“中生の早”に属する。
・「ブリザック」に比べて稈長はやや低く、着雌穂高は同程度である

（２）品質特性

・乾雌穂重割合は「ブリザック」並である。
・高消化性成分の割合は茎葉、雌穂ともに「ブリザック」並で、ホールクロップの TDN 含量も「ブリザック」と同程度である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道の道央北部、十勝中部および網走内陸部の気象条件が良好な地域
普及見込み：北海道で奨励品種に採用
（普及見込み面積　800ha）

６．品種登録出願状況

平成 23 年 9 月 14 日　出願

７．予算区分

［運営費交付金］212-c　粗飼料自給率向上のための高 TDN 収量のとうもろこし、牧草等の開発
［委託費］粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発、実施課題名：寒地向き高 TDN とうもろこし品種の育成

系譜図

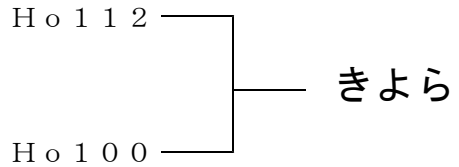


表１　生育特性
（適地の６場所における2007～2010年の延べ16試験の平均）

形　質	きよら	ブリザック
絹糸抽出期（月日）	8.3	8.3
発芽期（月日）	5.29	5.30
初期生育(1～9)[1]	7.6	6.6
稈長（cm）	251	262
着雌穂高（cm）	110	109
倒伏個体率（%）[2]	1.7	1.7
収穫時熟度	糊熟後～黄熟初期	糊熟後～黄熟初期
乾物率（%）	29.0	27.6
乾物総重（kg/a）	176.6(99)	179.0(100)
TDN 収量（kg/a）[3]	121.5(98)	123.5(100)
すす紋病罹病程度(1～9)[4]	18.0（極強）	27.3（強）

1）1:極不良～9:極良の評点　　2）倒伏と折損の合計．発生がみられた試験の平均
3）各試験における茎葉および雌穂収量と育成地における各消化性分画含量から算出
4）長野県野菜花き試における抵抗性検定試験の成績、0：無発病～100：完全枯死の指数

表２　品質特性　（単位：乾物中% ）
（北農研、2008～2009年；　近赤外分光法による）

品種名	茎葉の OCC+Oa	茎葉の Oa/OCW	雌穂重割合	総体の TDN
きよら	37.9	17.8	52.7	69.4
ブリザック	36.9	17.7	56.0	70.2

注）OCC+Oa：高消化性成分の合計、Oa/OCW：繊維成分の消化性、
TDN：可消化養分総量

２枚目：写真（作成例）

草　　姿

（左：「きよら」、右：「ブリザック」）

雌　　穂

（左：「きよら」、右：「ブリザック」）

《農林認定》　ソルガム「涼風（すずかぜ）」

様式２

１．育成機関
長野県畜産試験場　（農林水産省ソルガム育種指定試験地）

２．来歴
育成期間：平成１０年～２０年　（１１年間）
交 配 親：那系ＭＳ－３Ａ × ＪＮ５０１
旧系統名：ソルガム「東山交３１号」

３．主要特性
・高消化性遺伝子*bmr-18*を有する早生のスーダン型ソルガムである。
・乾物収量は標準品種「ＳＳＲ４」と同等で、乾物率は標準品種より高い。
・茎葉の繊維成分は高消化性繊維0aが多く、推定TDNは高い。
・サイレージの嗜好性は標準品種より高い。

４．特性概要
（１）生育特性
・育成地では早生に属するスーダン型ソルガム品種である。
・乾物収量は標準品種と同等である。
・乾物率は１番草、２番草とも標準品種より高い。
・倒伏は１番草、２番草とも少なく、耐倒伏性は強い。

（２）品質特性
・高消化性遺伝子“*bmr-18*”を持ち、bmr発現率は100%である。
・茎葉の繊維成分は0aが多く、推定TDNは１、２番草平均で58%である。
・サイレージの発酵品質は良好である。
・牛の嗜好性は、肉牛、乳牛を問わず優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：寒冷地南部から暖地
普及見込み：長野県で奨励品種に採用（H20）。
神奈川県で奨励品種採用予定（品種登録後）。
（普及見込み面積　40ha）

６．品種登録出願状況
平成２１年３月１８日　出願
平成２１年５月２８日　出願公表

７．予算区分
指定試験事業：寒冷地・温暖地東部向け高品質、病害抵抗性、青刈・サイレージ用安定多収ソルガム品種の育成

系譜図

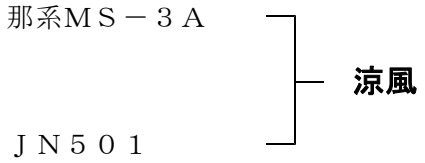


表１　育成地における生産力検定試験の成績（１）　生育調査

品種名	初期生育 (1-9)	1番草 出穂期 (月日)	1番草 倒伏 (%)	1番草 草丈 (cm)	1番草 稈径 (mm)	2番草 再生 (1-9)	2番草 倒伏 (%)	2番草 草丈 (cm)	2番草 稈径 (mm)	紫斑点病 (1-9)	すす紋病 (1-9)
涼風	6.2	8/12	0.0	254	12.7	6.1	0.9	222	10.4	1.0	1.6
SSR4(標準)	6.5	8/7	0.3	265	12.1	5.7	9.6	245	11.5	1.9	1.7
ｸﾞﾘｰﾝA(比較)	6.7	8/13	0.0	301	14.3	6.0	3.9	267	12.1	1.8	1.3

注1）試験年次：平成18年～20年.
2）初期生育、再生は極不良(1)～極良(9)の9段階評価.
3）紫斑点病、すす紋病の発生程度は無(1)～甚(9)の9段階評価.

表２　育成地における生産力検定試験の成績（２）　収量調査

品種名	bmr発現個体率(%)	1番草 生重 (kg/a)	1番草 乾物率 (%)	1番草 乾物重 (kg/a)	2番草 生重 (kg/a)	2番草 乾物率 (%)	2番草 乾物重 (kg/a)	年間収量 生重 (kg/a)	年間収量 乾物重 (kg/a)	年間収量 標準比 (%)	2番草比率(%)
涼風	100	416	18.3	75.3	346	17.9	62.6	763	137.8	99	45
SSR4(標準)	66	437	16.0	69.7	417	16.6	69.5	854	139.3	100	49
ｸﾞﾘｰﾝA(比較)	0	510	16.0	81.3	416	16.9	71.5	926	152.8	109	46

注1）試験年次：平成18年～20年．bmr発現個体率は平成20年度.

表３　育成地における原料草の飼料成分、サイレージの発酵品質および嗜好性

品種名	原料草の酵素分析による飼料成分 OCW DM%	Oa DM%	Ob DM%	OCC DM%	推定TDN	ロールベールサイレージの発酵品質 pH	有機酸含量(原物%) 乳酸	酪酸	フリーク評点	平均嗜好度
涼風	61.2	12.0	49.3	24.2	58.1	3.80	2.02	0.00	98	0.83
SSR4(標準)	58.3	10.1	48.3	26.8	53.1	3.73	2.88	0.00	99	-0.45
ｸﾞﾘｰﾝA(比較)	63.7	7.4	56.3	21.7	41.7	3.88	2.06	0.00	99	-0.39

注1）飼料成分は平成18～19年の1番草、2番草の平均．発酵品質は平成20年の1番草．嗜好性は平成18～20年4試験
2）推定TDN(bmr)＝OCC+Oa+3.53*$e^{0.0309*Ob}$-9.64
推定TDN(nonbmr)＝OCC+Oa+5.34*$e^{0.0334*Ob}$-8.83
SSR4はbmr発現個体率(表2)で補正.

1 番 草 収 穫 時 の 草 姿

（撮影：2008年8月19日　長野県畜産試験場）

2 番 草 収 穫 時 の 草 姿

（撮影：2008年10月2日　長野県畜産試験場）